



【感染症だより】

～RS ウイルス感染症について～

去年の今頃も流行が始まっていますが、RS ウイルス（Respiratory syncytial virus）が流行し始めました。以前は秋ごろが流行し始めでしたが、ここ数年は、夏から流行がみられています。このウイルスは、咳やくしゃみによって移る飛沫感染が主な感染経路で、潜伏期間は4-6日です。年長児や成人では風邪症状のみですが、特に悪化しやすいのが0歳児です。乳児では気管支炎や肺炎を起こすウイルスで、咳や発熱、喘鳴（ゼエゼエとする）、哺乳低下、苦しくて眠れないなどの症状がみられます。新生児～3か月位の乳児が罹患すると、症状が悪化して入院となることがしばしばあります。はじめは咳や鼻汁の風邪症状だけであっても、急に悪化することがあります。眠れない、哺乳出来ない（いつもの半分以下）、毎回咳嘔吐してしまう、顔色が悪い、ぐったりしているなどの症状がみられたら夜間でも受診しましょう。また、無呼吸や痙攣を起こすこともあり、危険な症状もみられます。熱が高くなるとも、呼吸状態がおかしい、苦しそう、顔色が悪いなどの症状がある時は、迷わずに受診をしましょう。経過は長く、咳が1ヶ月くらいは続くこともあります。熱が下がっても、咳の激しい間はお休みしましょう。

早産児や慢性肺疾患、先天性心疾患などの0-1歳児には、パリビズマブ（抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体）というRSウイルスに特異的なガンマグロブリン注射が保健適応となっています。筋肉注射ですのでとても痛い注射ですが、流行期間に毎月打つことによって、免疫物質を補充することができます。適応期間がかなり限られていますので早産児や心肺疾患のあるお子様の注射ご希望の方は小児科医にご相談ください。

【財務状況公表について】

～病児保育室あんず財務状況の公表～

毎年義務となっている財務状況報告を、しみず小児科・内科クリニックのホームページに掲載させて頂きました。詳細は、ホームページをご覧ください。

表：7月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	206
2	溶連菌	78
3	咽頭アデノウイルス	40
4	ヘルパンギーナ	34
5	RSウイルス	8
6	手足口病	6
7	水痘	5
8	おたふくかぜ	2
9	アデノウイルス胃腸炎	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

8月20～24日は**夏季休業**とさせて頂きます。ご迷惑をおかけしますが、何卒よろしくお願い致します。

文責： 清水マリ子

